

地域力再生プラットフォームのすすめ

平成24年2月

京都府 府民生活部 府民力推進課

協働コーディネーター

はじめに

「府民力」を最大限に生かした京都づくりを進めるためには、あらゆる分野で「地域力再生プラットフォーム」を設置し、府民と行政の協働による施策形成と具体的な事業を実行していく必要があります。

しかし、「プラットフォームって何？」「プラットフォームの進め方がわからない」といった声もよく耳にします。

それもそのはず。民と官の垣根を越えた多様な人々が集まる「地域力再生プラットフォーム」は、これまでにない新しい発想であり、先例の少ない挑戦的な取り組みなのです。

「地域力再生プラットフォーム」には、誰が、いつ、何を指して参加するのか？そして、どのような方法で進められるべきか？まずはそのポイントを整理し意識するだけでも、成果は変わってくるでしょう。この手引きを、日々のプラットフォームの運営に役立ててください。

プラットフォームとは？

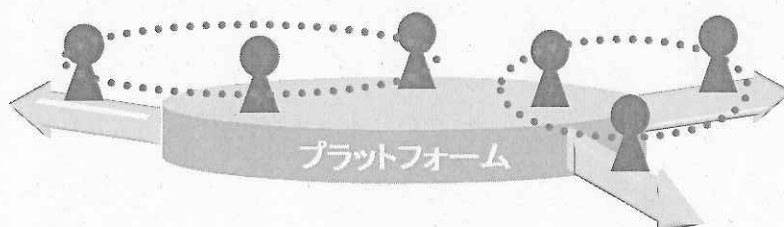
地域力再生プラットフォームとは・・・

自治会やNPO、大学、企業、京都府や市町村などが、共通する課題に応じて集まり、それぞれが得意とするネットワークや知恵を活かしながら地域の課題解決や新しい価値創造に向けた施策や協働事業を生みだし、実行に移していく場です。

イメージは、駅のプラットホームです。駅に行くと、プラットホームからいろいろな場所に向かう電車が走っています。

新しい課題やニーズが見つかり、それに関心のある人たちが集まる議論の場(プラットホーム)がつくれ、そこから、課題解決や価値創造に向けて次々とグループや事業(電車)ができていく。

地域力再生プラットフォームとは、こんな新しいタイプの取組です。



なぜプラットフォーム？

では、なぜ地域力再生プラットフォームが必要なのでしょう？

地域では、犯罪の増加、児童虐待の増加、地域文化や産業の衰退など、多くの課題が生まれています。こうした課題は、かつては地域コミュニティの中で解決されてきました。

しかし、コミュニティの構造が変化しつつある現在、

行政だけでは対応できない課題やニーズが生まれています。

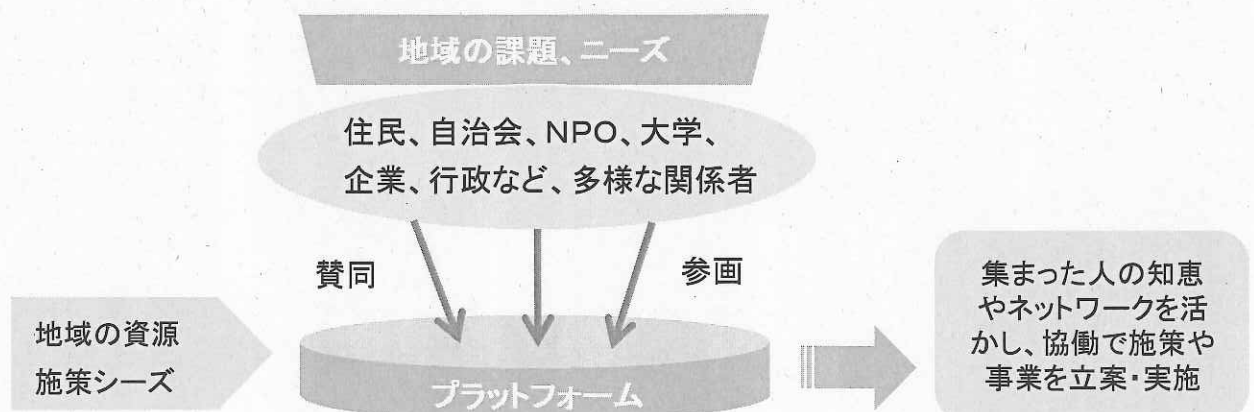
また、企業だけでは対応できない課題やニーズが生まれています。

そして、住民だけでも対応できない課題やニーズが生まれています。

地域づくりの担い手が多様化する中で、

相互の知恵やネットワークを活かすことで、よりよい課題解決や価値創造を生み出していくことが必要となっています。

そうした協働の場が、「地域力再生プラットフォーム」なのです。

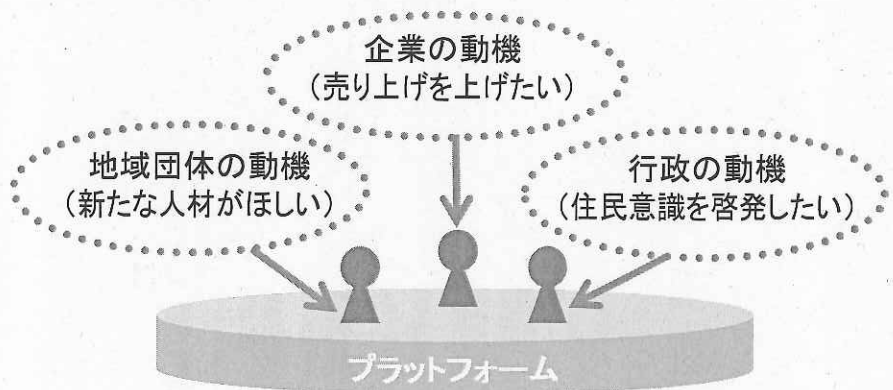


運営のポイント

協働 地域力再生プラットフォームでは、
民間と行政が施策・事業の企画段階から協働します。

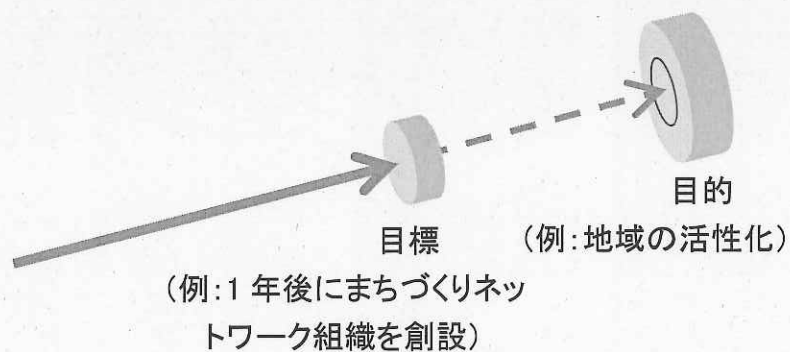
	民間主催 事業	補助 事業	プラット フォーム	委託 事業	行政主催 事業
企画主体	民間	民間	民間＋行政	行政	行政
実施主体	民間	民間	民間＋行政	民間	行政
(資金)	民間	民間 ＋行政	民間＋行政	行政	行政

参加 地域力再生プラットフォームでは、
参加する各団体(メンバー)の“動機”は必ずしも
同じである必要はありません。



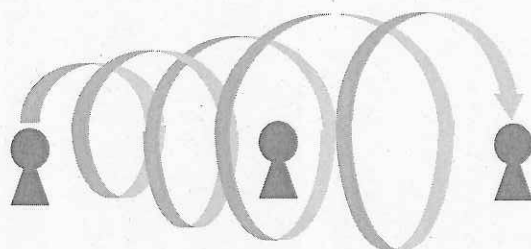
目的 & 目標

地域力再生プラットフォームでは、
共有する「目的」と、実際にプラットフォームとして
取り組む“期限付”の「目標」を、具体的に設定します。



コミュニケーション

地域力再生プラットフォームでは、
メンバーが情報や資源を共有し、創造的にアイデアが
出せる関係がつくられます。



オープン

地域力再生プラットフォームには、

誰でも、どんな団体でも自由に参加・退出できます。

また、多くの人に参加してもらうために積極的に広報します。



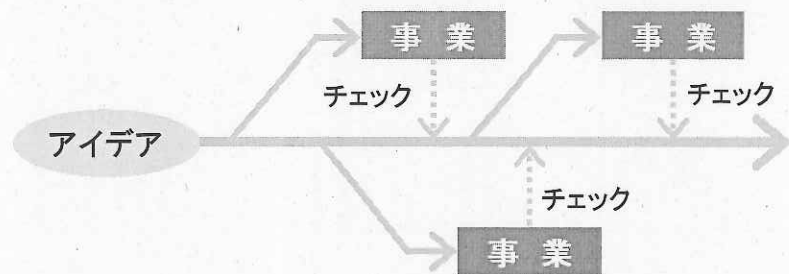
事業化 & 振り返り

地域力再生プラットフォームでは、

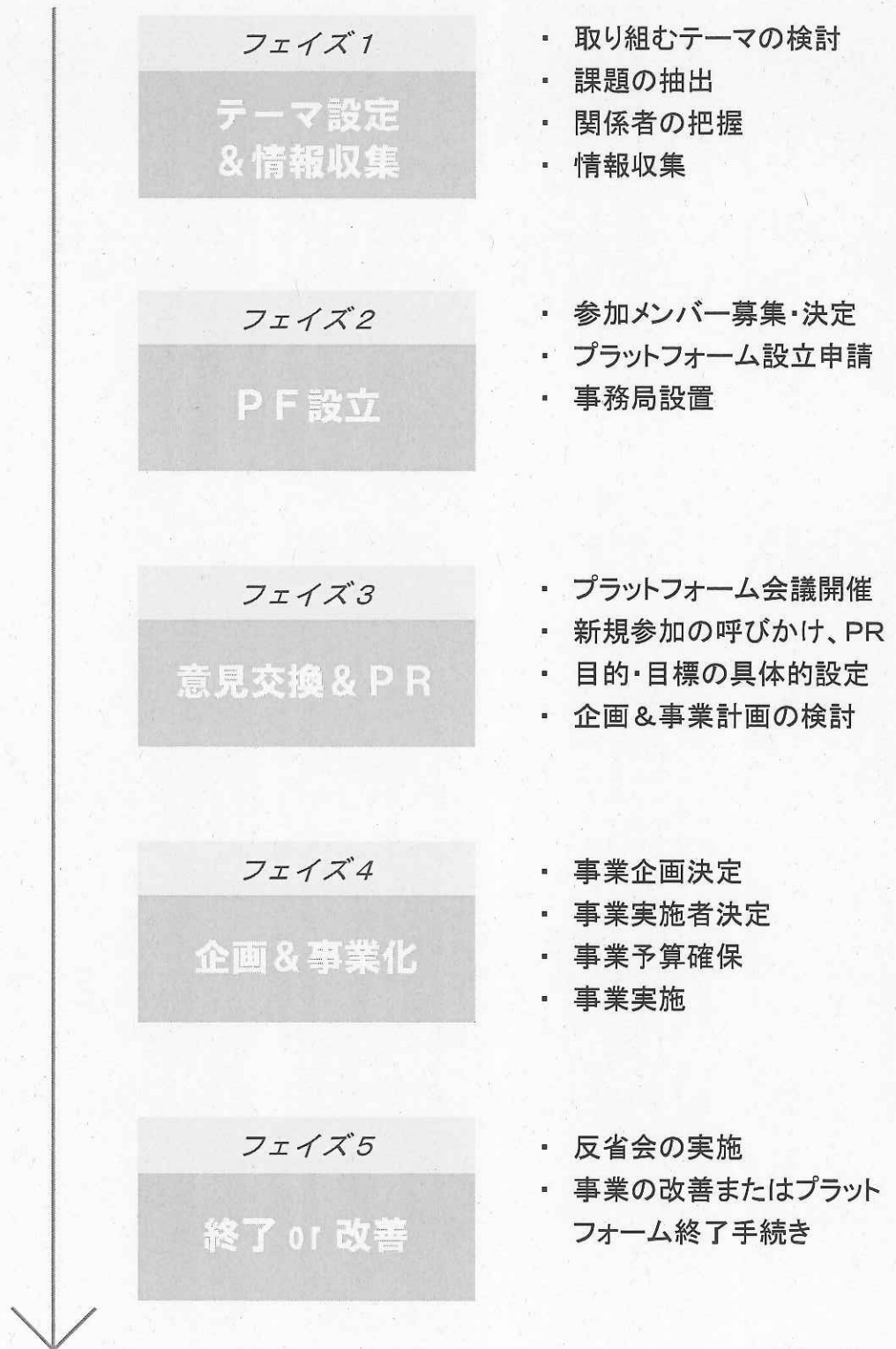
メンバーから出されたアイデアを企画化だけでなく、

協働して事業を実施していきます。また、事業後は

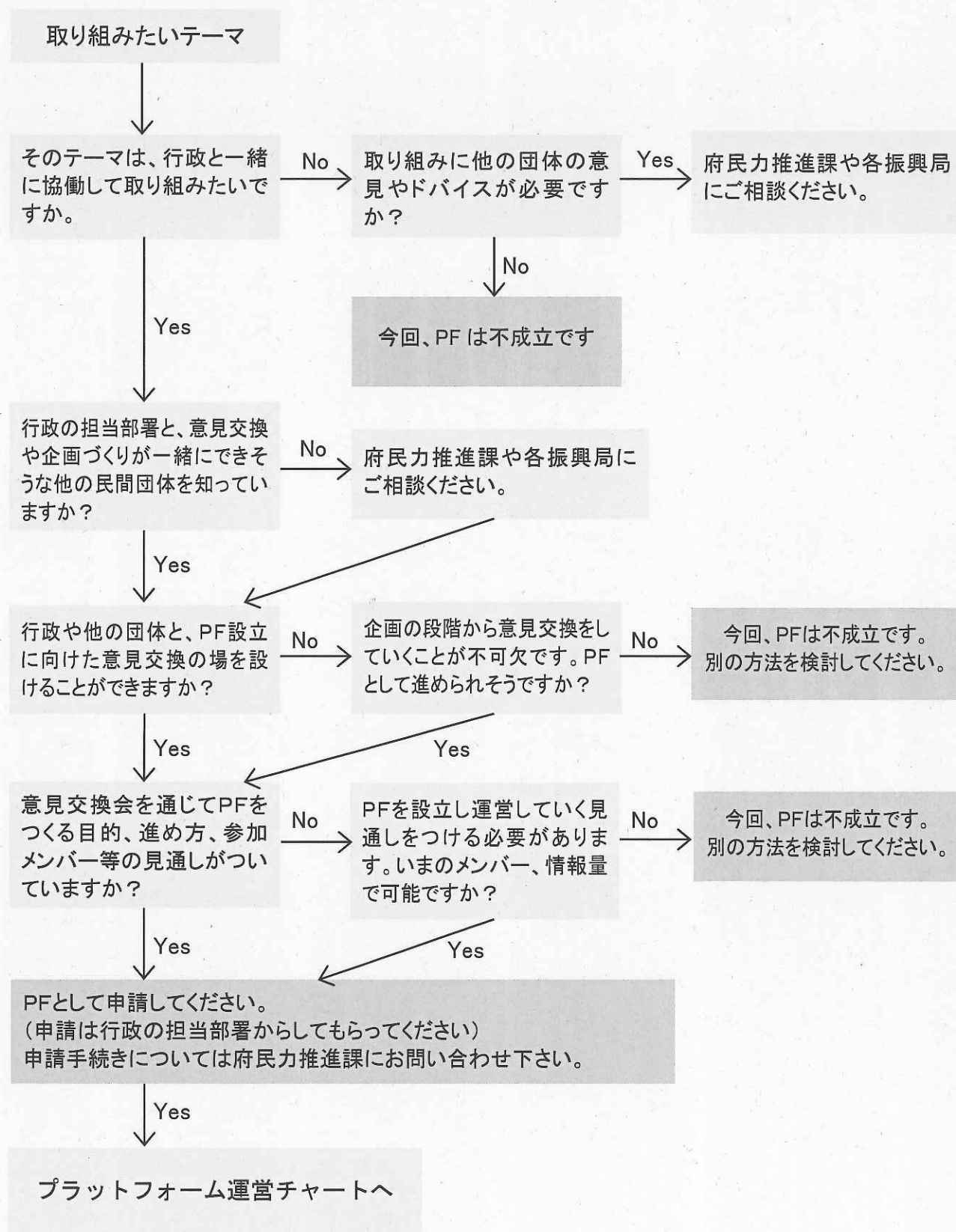
振り返りを行い、次の活動に活かします。



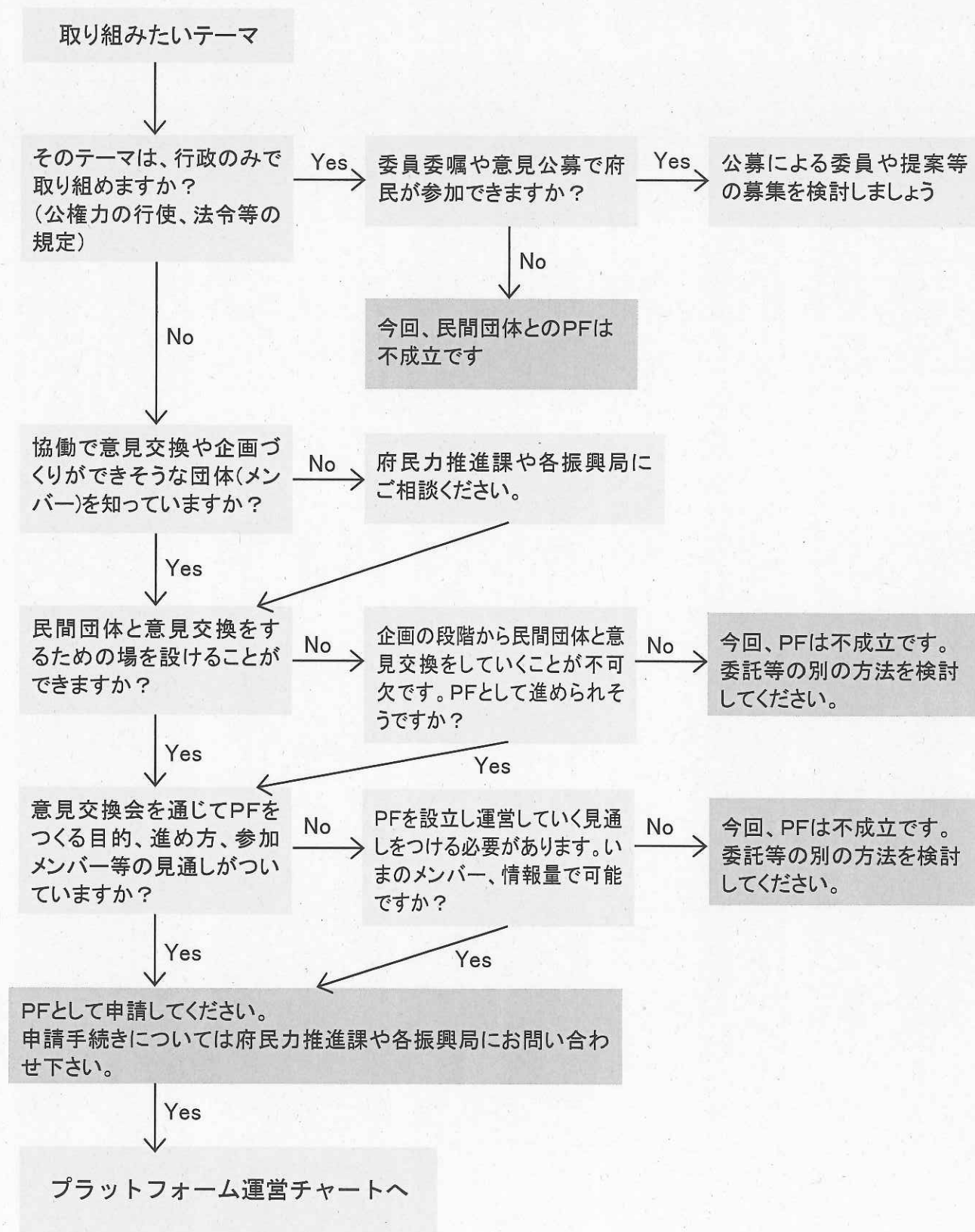
運営の流れ



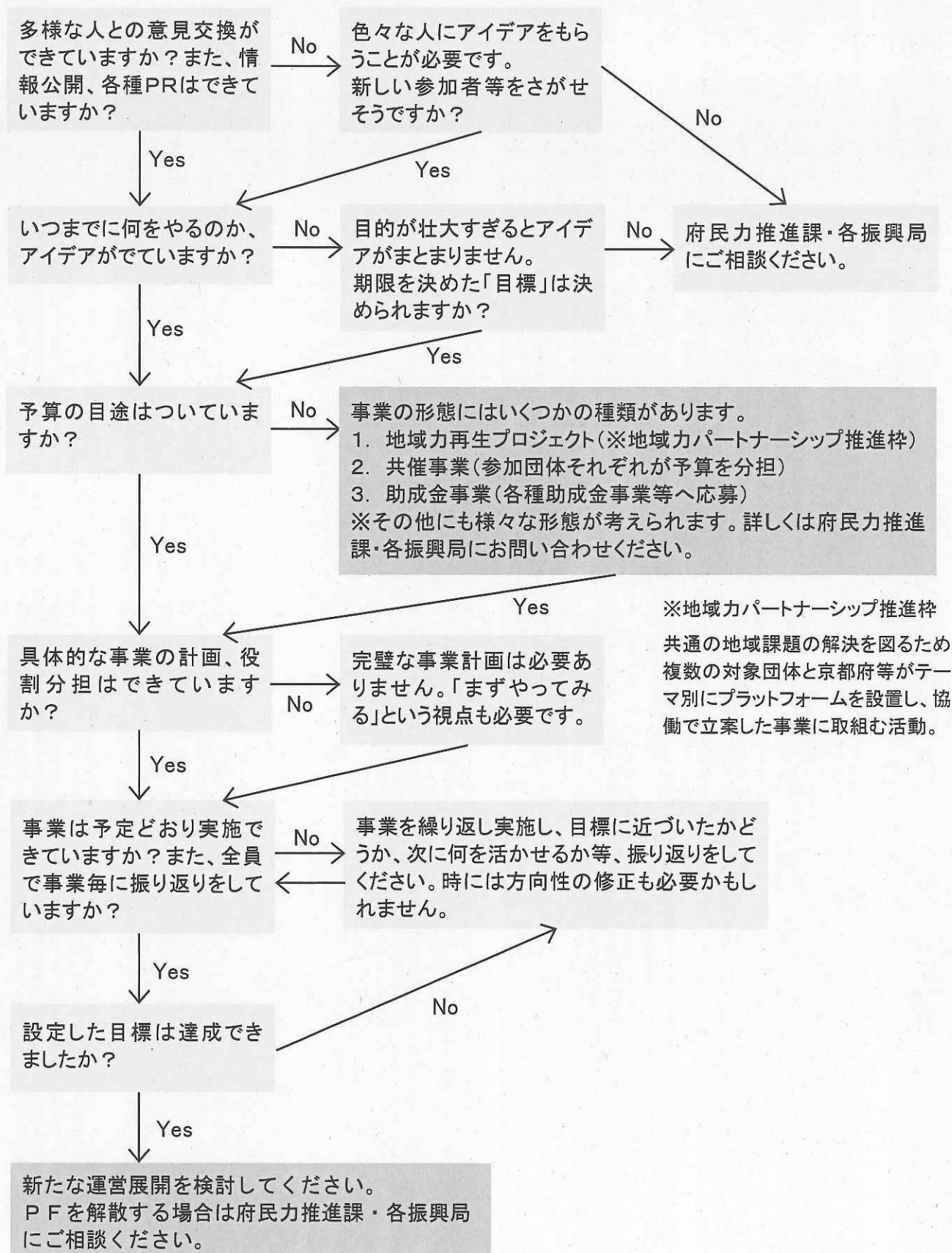
プラットフォーム設立チャート（民間提案 Ver.）



プラットフォーム設立チャート（京都府提案 Ver.）



プラットフォーム運営チャート



地域力再生プラットフォームの協働の事例（10件）No.1

企画段階から協働して事業を実施し、民側・行政側からの評価を得ている本庁所管の事例10件

名称・テーマ

＜京都コラボ倶楽部カフェ＞
「地域力再生コラボ博覧会」と
タイアップしたコラボによる
活動のアピール



協働の概要・成果

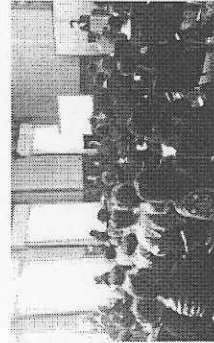
民間事業者のノウハウと力、行政のコーディネートで、地域力文化祭と地域力体感ツアーを実施。文化祭では地域活動の勢いや魅力を広くアピールし、ツアーでは地域活動を付加価値をつけて販売実践。府民や民間目線で地域力応援隊づくりにもつなげている。

＜地域力・女性のイチャオカカフェ＞
女性の目線で地域の
魅力発信のネットワークづくり
とまちおこし



地域活動に携わる女性たちが、特産品づくりや文化発信など自分たちの活動を女性目線でアピールした通信発行やカフェ開催でアピールと販路拡大。活動の楽しさが女性の口コミ力やネットワークで広がり、地域に埋もれがちな女性活動者らの力や励みになっている。

＜地域力再生公共人材の育成＞
地域力再生活動に取り組む
人材の養成



NPO活動者や大学、行政らが情報交換や様々なアイデア、ノウハウで役割分担しながら公共人材の養成講座を実施。活動の自立継続や活発化、新たな活動づくり等ニーズに応じた柔軟なカリキュラムで好評。北部地域での事業実施にも広がり、今年度は京の公共人材大賞を決定予定。

地域力再生プラットフォームの協働の事例（10件）No.2

名称・テーマ

協働の概要・成果

<府民協働防犯ステーション> 地域防犯力の向上



地域の安心・安全に関わる様々な団体が、交番・駐在所を核に警察・行政と連携し、地域の実情に応じた防犯活動を実施。「自分たちの地域は自分たちで守る」といった意識が、地域一体となった活動を生みだし、地域力の向上にもつながっている。

<京都竹カフェ> 放置竹林対策と 伐採した竹の利活用



放置竹林に取り組む団体が知る、広げる、参加するをキーワードに協働事業を企画、運営する。放置竹林マップの作成、竹や竹炭利活用のフォーラムやワークショップの開催、竹炭づくりレンタル窯制度の運営等、ボランティアレベルでは解決の出口が見えない課題に取り組む。

<府庁旧本館利活用支援ネット> 府庁旧本館の 利活用・整備修復の あり方を検討する

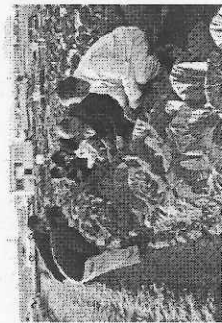


旧本館を「府民に開かれた府庁」のシンボルとすべく、その利活用や修復整備に関心のある個人や団体らと協働して。府庁こだわりのマルシェや春・秋の一般公開等協働事業を創出し、しっかり定着した。毎月のオープンな会議での知恵やアイデアが企画の工夫につながっている。

地域力再生プラットフォームの協働の事例（10件）No.3

名称・テーマ

＜カーボマイナスイニシアティブ＞
炭を活用した野菜づくりの
環境価値の認証と
持続可能な活動づくり



＜えふあまーファームら京都＞
府民が自ら応援や
関わりを求めていきなくなる
農業生産



＜虐待未然防止の親子支援活動＞
住民・行政ネットワークによる
虐待未然防止の
親子支援活動



協働の概要・成果

亀岡市で放置竹林整備の効果的展開のため、竹炭を野菜づくりに活用して環境価値を認証するシステムや、オ리지ナルエコ野菜・特産品の開発・販売、地元小学校の環境教育など、市職員中心に大学等も参加して各種実験事業を実施しながらネットワークを広げている。

生産者と消費者、行政のネットワークにより、顔の見えるかたちで「エコファーマー」を応援し、食の安心・安全と、購買とのタイアップで売れる野菜づくりにつながっている。

民間発で、長岡京市エリアで、子育て支援団体、府、市らの「長岡京市子育て支援ネットワーク」を設置。学習会や市民向けのイベント、個別指導など行政、民間それぞれがそれぞれの部分を効果的に役割分担で補いながら実践し、早期発見で虐待ゼロのまちを目指している。

地域力再生プラットフォームの協働の事例（10件）No.4

名称・テーマ

＜配食活動協働プラットフォーム＞
配食活動を広めよう

協働の概要・成果



民間発で、長岡京市を中心に、一人暮らしの高齢者の安否確認を兼ねた配食活動を広げるため、保健所の衛生面や栄養面の専門知識と実践者らの視点をあわせて新規団体の立ち上げ支援やスキルアップ支援を行っている。



京都府 府民生活部 府民力推進課

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入

TEL: 075-414-4452/FAX: 075-414-4230

E-mail: fuminryoku@pref.kyoto.lg.jp

HP(プラットフォーム): <http://www.pref.kyoto.jp/chiikiriyoku/1239927457491.html>